わげんあいご　　びてんぎょうし
和顔愛語・美点凝視　校長室からご家庭へ　　R3.12.13(月) 文責：百田

後期の生徒会もさすがです。にこにこ笑顔で大きな声で自分から挨拶しています。

12月６日から20日まで、後期の生活委員会が中心となって、朝7時40分から55分まであいさつ運動を繰り広げています。キャッチフレーズはその名も『目指せ！日本一の挨拶ができる三方中学校！』です。三方中学校の雰囲気をさらに良くし、三方中学生が気持ちよくお互いに学校生活を送るためにはどうしたらよいか？と考えての活動だと聞いています。一緒に参加してくれる人も募集しています。あいさつの輪がどんどん広がるといいなと思っています。

地域からのご支援ご協力、生徒たちとの協働、本当に有り難うございます。

学校の役割は、①一時間一時間の授業を充実させることと②安全・安心に通える学級づくり・学校づくりだと考えていますが、学校教育の目的は何か？と聞かれたら、それは、①生徒たち一人一人の未来を豊かなものにすることと②生徒たちが、未来社会のよりよいメンバーとなれるように育てることだと考えています。

その意味において、昨年度から始まりました、週2時間の総合的な学習の時間で取り組んでいる MIKATA Research は、とても重要で効果的な役割を果たしてくれています。

今年で言いますと、町役場の観光未来創造課や政策推進課、年縞博物館や縄文博物館、レインボーラインや海浜自然センター、園芸試験場や梅元気本舗さん、鳥浜漁協や町内の旅館、料亭など様々なみなさんに、何度も取材にご協力いただいたり、指導にお越しいただいたりしながら、生徒たちが設定した探究テーマを深めていくことができました。

また、生徒たちが探究活動を進めて行く中で、「私たちにも何かできないかな」という想いが膨らんでまいりまして、教わるばかりではなく、あるいは大人になるまで待つのではなく、今、少しずつでも良いから、自分たちもふるさとの現状をよりよくしていくためのアクションを、あるいは呼びかけを起こしていきたい、そのためのアドバイスを指導のみなさんからいただいては、何度かサイクルを回すという動きになっております。

3年生の例を挙げますと、若狭町はおいしい魚がたくさんとれるので、これを有名にしたいとの考えから始めたのだけれど、探究を進めていくうちに、若狭町の経済を豊かにしたいという想いが高まってきて、内臓や骨を利用しての骨せんべいといり酒を作ったグループがあります。試作を重ねるうちに、骨は大きくない方が作りやすかったり、骨せんべいは、がん予防や血栓の予防にもなるということを専門家の意見から知ったりもしました。「このような医学的な効果も合わせて、パッケージにして商品化可能なところまではたどりついたのだけれど、実際にお店で販売してもらうところまでは時間切れとなってしまいました。この探究テーマはぜひ2年生や１年生に引き継いで欲しい」といったことを最終発表会で下級生に訴えていました。

学校だと、一旦仕上がると、もうそれでいいかなと、つい教師も甘くオーケーを出してしまったりしがちですが、実社会においては、商品や作品は少しでも良いものにしないと世の中に出せないし、売れる見込みもないということで、指導者のみなさんから何度かだめ出しや手直しをしていただいて、世の中の厳しさのようなことも教えていただけて、とても有り難かったです。

このように、現在と未来、学校と地域というつながりにおいて Win&Win の関係性を築きながら、子どもと大人が協働して、少しでも地域社会をよりよいものにしていきたい。持続可能な地域社会づくりのためには、この探究学習も含めた持続可能な活動が何よりも必要だと考えて、この歩みをさらに進めてまいりたいと思います。

来る１月28日には、2年生を対象に、渡辺英朗町長さんから「SDGsでつくる若狭町の未来」という演題でご講演をいただきます。また、１月20日頃からは、レピアの１階展示スペースをお借りして、身近な人（地域・家族・友達）への感謝の気持ちを伝える「ありがとうの標語」が生徒会の企画で、順次掲載されます。引き続いてのご支援とご協力をどうかよろしくお願いします。

↑ レインボーライン山頂公園に、本校3年生がデザインした案内図を作っていただきました。